

日本映像学会メディアアート研究会企画



仮想空間での映像表現展

日時：2022年9月17日（土）—10月2日（日）12:00—17:00 月曜・火曜休館

場所：愛知県立芸術大学芸術資料館 入場無料

展示作家：

小鷹 研理（名古屋市立大学芸術工学研究科准教授）

村上 泰介（愛知淑徳大学創造表現学部教授）

山本 努武（名古屋学芸大学メディア造形学部准教授）

長谷 海平（関西大学総合情報学部准教授）

関口 敦仁（愛知県立芸術大学美術学部教授）

日本映像学会メディアアート研究会 講演・研究発表

「仮想空間での映像表現について」

講演：小鷹 研理（名古屋市立大学芸術工学研究科准教授）

発表：長谷 海平（関西大学総合情報学部准教授）

日時：2022年9月23日（金）14:00～16:00（質疑応答時間含む）

場所：愛知県立芸術大学芸術資料館演習室

定員54名 ※先着順 ※入場無料



河南登真、小鷹研理《頭部解放のためのセレモニー》2021

※新型コロナウイルス感染症の状況により、予定を変更及び入場制限する場合がございます。
※VR展示用HMD装着の際には対策のため不織布のゴーグルマスクを使用していただきます。
問い合わせ先：芸術情報・広報課 TEL. 0561-76-2873（平日 9:00～17:30）

愛知県立芸術大学

小鷹研理 (こたけけんり)

名古屋市立大学芸術工学研究科准教授。「からだの錯覚」を通じてミニマルセルフを探究する小鷹研究室を主宰。主な展示に「からだは戦場だよ 2018Δ ボディプロジェクト思考法」(やながせ倉庫・ピッカフェギャラリー)、「名古屋電映博 2020 注文の多いからだの錯覚の研究室展」(ナディアパーク・7th カフェ)、「小鷹研究室の錯覚論争 2016-20/頭部解放宣言」(2021年、NTT インターコミュニケーション・センター)。2019年に日本認知科学会より第7回野島久雄賞を受賞。



種田寛、小鷹研理《不連続窓関数特區》2021

村上泰介 (むらかみたけいすけ)

1999年IAMASでMedia Masterを取得。2002年基盤技術研究促進センターとキャノン株式会社の共同出資によるMRシステム研究所にて拡張現実感技術を活用した作品Contact Waterを制作し、第5回文化庁メディア芸術祭にて優秀賞を受賞。京都市立芸術大学の博士課程で発達障害とメディアアートについて研究し、その成果を発達障害の聴覚経験を追体験する装置Ear Ball for Empathyとして2011年-2015年にかけて制作し、プーローニユの森で開催されたJardin Japonaisや、UNESCO Creative Cities Networkなどで発表してきた。現在は、ニューロダイバーシティとメディアアートをテーマに研究を進めている。



村上泰介
《スペクトラム・リアリティ：
幼児の場合》2019-2022



交通案内：
●名古屋方面から
地下鉄東山線
「藤が丘」駅下車
東部丘陵線(リニモ)
「芸大通」駅
下車徒歩約10分
●豊田・瀬戸方面から
愛知環状鉄道
「八草」駅下車、
東部丘陵線(リニモ)
「芸大通」駅
下車徒歩約10分

愛知県立芸術大学 愛知県長久手市岩作三ヶ峯1-114
「仮想空間での映像表現展」
問い合わせ：芸術資料館 TEL. 0561-76-4698 (平日 9:00 ~ 17:00)

※愛知県立芸術大学サテライトギャラリーSA・KURA(名古屋・栄)にて
メディア映像専攻関口敦仁教授退任記念展示開催中
9月9日(金)-10月9日(日) 12:00-19:00 月曜休館

山本努武 (やまもとつとむ)

成安造形大学(学士)、IAMAS(修士)、愛知県立芸術大学(博士)
名古屋学芸大学映像メディア学科 准教授。
景観や空間を扱った視覚芸術作品を制作。近年は認知心理学における
実験や問題を作品要素に引用し、芸術体験とヒトの認知機序の関係性
について言及。
近年の展示として：「景観の解像度」2019 ArsElectronica、2018 愛知県
立芸術大学 芸術資料館、市民ギャラリー矢田



山本努武《景観の解像度》2017

長谷海平 (はせかいへい)

兵庫県生まれ。一橋大学情報統括本部情報基盤センター、京都大学高等教育研究開発推進センターの勤務を経て、2020年より関西大学総合情報学部准教授。VR-HMDをメディアとして制作研究に取り組む。
“Maillot de bain”(2018/Gallery X)ではVR空間内にゾートローブを取り込んだ表現を行った。これを基として現在、愛知県立芸術大学博士後期課程にて仮想空間内で時間の演出にゾートローブを用いる手法に関する制作研究に取り組んでいる。



長谷海平、矢崎俊志《Regular Position No.X》2022

関口敦仁 (せきぐちあつひと)

1958年東京生まれ。絵画・インスタレーション・メディアを中心とした作家活動を行い、1996年より情報科学芸術大学院大学教授を経て、2013年4月より愛知県立芸術大学デザイン・工芸学科教授。身体情報を利用した「Connected Re-Body」1999年、金華山島に滞在して制作した「景観シリーズ」2004-7年など、自己の身体知覚と場所性をテーマにした作品の発表や地理情報を活用した歴史情報コンテンツの研究などを行なっている。



関口敦仁《ぐるぐる》2022